

20200531強羅花壇__ボイスレコーダー反訳(文字起こし)

・・・は聞き取れていないという意味で使用しています。

発注したのにリネン(バスタオル・タオル類・シーツ等)が入ってこない湯川に確認
冒頭にて必要数を言ってるがそもそも、業者と強羅花壇で持っているリネンの絶対数が発
注数を上回っている為持ってこれないを行っている。しかし、後日その数量を上回る納品が
あったため、そもそもの湯川の言い分の辻褄が合わない。

0:26

野田頭:は～い。白洋舎の納品書確認したんですけど。

湯川:うん。

野田頭:え～その、・・・見ても明らかに来て無いんですけど。

湯川:そんなに入らねえよ。第一無いもん第一に。そんなに470なんてねえもん。2回に、2回に分
けるか前もって頼むしか無いよ結局。470の。

野田頭:夜持ってきます？

湯川:いやもう、これこれこれ、今日いくつはいった？

野田頭:380

湯川:380入って足りない？

野田頭:ただ、380入って在庫-130, 140として、さんぱでうん。理論上だと足りない。

湯川:たりる？

野田頭:たりない。

湯川:足りねえの？

野田頭:ただ、これが、どうなってんのかってなていうのが一番気になってるんですよ。

湯川:だからそんなにはねえから、今日の入った分だけだよ！それは確かにイガラシが言って
たよ。こんなにねえから。って。要するに、工場にねえからって。工場に回って洗濯に回ってるもの
があるでしょ結果的に、トータル的に、500枚あってもさ、だから、それである分だけでもダメだっ
たら大浴場の物を出すしかねえわけ。

野田頭:以前もあの要は、僕が休み、一昨日か確認した発注書・納品書と。で、全然足りてなかつ
たんですよ。・・・的に。

湯川:これ～昨日はよ、幸子さんだったから、多分出てねえはずだけど。・・・30日の分だけど、こ
んなにはねえから。今日の分しか、今日いくつ入ってる？

野田頭:要はこの分って言うのが、こないだの足りない分も

湯川:うん

野田頭:合算してって事で、

湯川:今日はだから、これで行くと今日は380しか入ってない。

野田頭:380しか入ってない。

湯川:入ってない。そうそうそういう事。

野田頭:要は、以前もそれで、え～と、ロス発注して、リカバリーがかかっている。状態じゃないはず
なんですよ。

湯川:うん

野田頭:で、それでリカバリかけて、こっちの今380でどーんと来てる分でいっぺんに持ってってた
んで。ただ、最悪～夜か朝かという話になるんで。

湯川:明日はもう来ないからさ、結局あさってになる。うん、具体的に。

野田頭:それでも～、白洋舎側との取り決めじゃないですけども、発注書。

湯川:発注書はだしてもいいんだよ。発注書を出しても良いんだけど、納品が偶数日でしか無い
わけ。

野田頭:一応なんだろう、普通、業者間の取引って発注書だして足りなければ、まあ。

湯川:それは要するに、工場を閉めちゃってるから結局。

20200531強羅花壇__ボイスレコーダー反訳(文字起こし)

野田頭:それはわかります。

湯川:それは工場しめちゃってるから、動かねえの結局。で、箱根のあそこのダンプ所にも人を置かねえわけ結局、空なんだよ結局。

野田頭:わかります。わかります。

湯川:簡単に言うと結局クローズなんだよ結局。それを要するに今言ったように。・・・分を要するに頼まないといけないから。という事で2日分を頼まなきゃいけないから、あの～、データを宮城野のルートマンへ送るわけ。その前の時は、担当者にこの話が、その話が伝わってなかったんだって結局。だから持ってこねえから、浴衣とか寝間着が後から持って来たやつ、営業に文句垂れて厚木からまだほら箱根まで来て運んで貰ったわけ。実際問題、会社ウチだけじゃねえから。

野田頭:わかります。わかります。それはわかります。

湯川:うちの方は馬鹿だからよ、強羅花壇中心に世の中回ってると思ってるからよ。そうじゃないから、今、コロナ中心で回ってるから。その都度、その会社の都合があるからって事で、じゃうちの方は、ましてや、ここ殆どみんな閉まってるんだから。ここと、うちと雪月花だけだから配達が無いわけよ。それがだからもう要するに話を持ってったら、え～と、偶数日、偶数日には配達するって言ってるの。だから、前もって奇数日でその前の偶数日でもいいや。その日の納品数を決めて、その数だけをFAXで送ってくれてつっていつているわけよ。

野田頭:わかります、わかります。

湯川:そういう事。だから、それにしても必要以上には結局、無いわけ結局みんな。

野田頭:根本的に物が無いって。

湯川:そう、そうそう。工場もそうなわけ。動いてないから結局。この間までその辺暇だったから。2つある機械を一つ止めたの。2日にいっぺんしか。・・・回さないはずだ結局。だから、それを～要するに無くすために、これをやりだしたんだ。結局。

野田頭:それで要はこれで足りないのが2回めなんですよ。

湯川がお客さんの悪口を言い始める。初めは内務にリネンの数を数えるという業務を振ってきて、数を数えるだけのハズが、発注業務まで内務にやらせる様になり、発注をやったと事無いと言って数が足りなくても合意の上で自分が営業所まで取りに行く話をしていたのに、面倒くさがって文句ばかり垂れていた。

発注のガイドラインを係にリスニングしてガイドラインを作成、部長等に確認して発注の計算式等を組んだが、元々、湯川は部長の合意の上で発注のガイドラインを持っており、私が作成したものとほぼ同じものだった。それをわかっていながら業務が忙しいから手伝えるときだけ手伝えるという話で初め合意したのに、責任を押し付けるように業務を振ってきた。

湯川:足りねえのは年中だもん。結果的には、内のかかりがめちゃくちゃ使ってたもん。この間このお客さん、ツジモト様ってな、バスタオル一人で8枚使ってたもん。こんな。一人でこれ、え～と。これかつ！この人。8枚使ってたからな。それも、あまりだからうちの方で何でもかんでも、詰め込めばじゃんじゃんじゃん持ってちゃうから。それを要するに分散化して、あの～ある程度の幅をきかせておけば良いわけよ。それでこっちのなんというかカゴの中に入れてけば、もう、お姉さん達はもうよう、過剰サービスの癖がついているから、何でもかんでも持ち出しちゃうから。だあ、それを要するに抑えるために、あなた方に振り分けてくれて言ってるの。

野田頭:まあ、わかりますよ。

湯川:ううん。で2階と3階何ていうのは今日は入れなきゃしょうが無いけど結局。それでもあの～あれは～貴賓室かなんかで、1階と4階と5階くらいだべ。

20200531強羅花壇__ボイスレコーダー反訳(文字起こし)

野田頭:まあでも、とりあえず、今日の～人数なんで。

湯川:うん。

野田頭:一応～浴衣とあれは～もう、全部～。

湯川:入ってるっしょ。うん～そうそうそう。だあ、蓋開けてみれば明日8人とか10人とかなるから、でしょ。

野田頭:・・・。

湯川:波があるからさどうしてもそこは無理があるのは分かってるんだ結局。だけど、そういうふうにはやらないと行けない。

野田頭:だから、週末に合わせて週末に合わせて僕が1回だしたやつで、で～。

湯川:うん

野田頭:全然足りてない状況だったんで～。

湯川:うん、ううん～。

野田頭:で10・20で～最終的に5・60人ぐらいも～ボカ～ンと膨れ上がってたんで。でそれで～リカバリをかけるあれでも、まとめて持ってきてないですよ～。っていうあれで・・・。

湯川:これが～誰が持ってきたやつだこれ。

野田頭:ん？

湯川:これっ！これっ！

野田頭:僕が、うん？

湯川:これ、400・・・誰か。この字白木じゃねえからよ。

野田頭:あっ、僕です。僕です。

湯川:だからこれを要するにこっちで頼んでるんでしょ。28日にFAX送ってるわけだ結局。

野田頭:で、そんな時にあの～要は白木さんに言って、ああ、納品書とあの～発注書？

湯川:うん。

野田頭:ちょっとと見せてくださいって言ったら

湯川:うん

野田頭:これですって差分が出てるんですよ凄い。

湯川:だからそれしか、だからそうでしょ結局。それはわかるけど、向こうも無きゃ結局それしか持ってこないから結局。それ・・・こんなに必要じゃなきゃ何ていうの結局取らないから。持ってきたらみんな結局金払わなきゃいけなくなっちゃうから。・・・書送るから。

野田頭:・・・実際問題、今日の今朝もギリギリだったんで、持ってきてくれてればそのリカバリ分もってというのはあるんですよ。だから新規が～入れ・・・。

湯川:・・・210足りなくて～。

野田頭:・・・違います。これは100でした。

湯川:100？100か、100足りないんでしょ足して一

野田頭:で～まあ、ハンドタオルは何か多くて100枚だか～。

湯川:ハンドとフェイスはあるじゃもつと。

野田頭:ありますあります。

6:54

湯川:で～、バスタオルってそんなに結局無いから。うん、作ってるのは作ってるけど。470なんて空前な量ははっきり言ってダンプ場いってもねえ。

野田頭:ふ～ん

湯川:大体、単純計算して一人3枚で、これ作ってもらってんの～。ねえ、100人で300枚とかそういう上限だからさ結局さ。それ以外に多少のものはあるけど。

野田頭:う～ん。

湯川:前年のあっ、前日の残りとかで回してるから。

野田頭:ああっ、はいはい。

20200531強羅花壇__ボイスレコーダー反訳(文字起こし)

湯川: 館内に470とか500枚とかそんな在庫はまず置くこと無いから結局。で、結果的に何よ、足りねえ足りねえ何とか行きそうなの?

野田頭: ギリギリ・・・

湯川: ギリギリ、そりゃあ係のやり方次第だから。なきやねえで自分たちで考えんべ結局。なきやねえつつたって、他から持ってくるとかさ。そういうふうにするしか無いから結局。とりあえずだから、亮には言っとくからよ。亮今日休みかっ? いるべ?

野田頭: います。います。

湯川: 空前のなっ、めちゃくちゃな使い方すると無いよって。会社側のやり方だからって。ねっ? そりゃそれでいいよ。あなた方がなんか言われたらおれんとこに言ってくればいから。

野田頭: わかりました。

湯川: はいっ、用度です。はいっ、はいよ。うん、すいません、ありがとうございます。おしぼりは今持ってくるからさ。

野田頭: はいっ。

湯川: で、飲み物もさっき俺、2階のやつはパントリー入れて自分達で入れさせるように・・・。だからちよっとその所はもう少し詰めないといけないから。とにかくさ、あれが激しいからさ。

野田頭: そりゃそう・・・。

湯川: 俺が白木にゆった、ゆったのにはあれよ、3日分? 3日分の向こうにも迷惑かかるから、週末はしょうがねえや、だけど、普段の日は8人・10人ってそんな数だから、3日分要するにあのFAXで送っちゃえて。

野田頭: まあまあ。

湯川: それで要するに3日分の要するに3日分の3日分目のこうやってラップするだけってよ。そしたら少しは溜まってくるでしょ。

野田頭: 多少は。

湯川: たまって溜まらなかつたら。溜まってだめだったら、たまってあふれる様だったら。そこで一回きれば良いんだからさ。そりゃ、話して、ただ、幸子さん何か、送んなきゃいけね所送んなかつたらしいから。それで、朝バタバタしてた。こねえつつてんだ。

野田頭: じゃあ要はこれでもまだ全然無いって事なんですか。

湯川: ...、営業に聞いてどのくらい回ってるかわかんねえな。結局な。

野田頭: 今、ただその～無いのは無いで、わかるんですけど、ただっ、発注で出して、どれで現状MAXに持ってこれるのっていうのと、

湯川: マックスも何もさ、もお～お客さんに準じた、納品しかねえわけだよ結局。考えてみると、まあ、今現状～

野田頭: まあ、はいっ。

湯川: 次の日もある程度の入っていれば良いんだけど。もう、そのままガクンって。あの何ていうか、谷間が凄いでしょ。

野田頭: まあ、わかりますよ。

どんぶり勘定でやりすぎて厳密な計算ができない

湯川: ん～、・・・とは別に3日分の、単純計算したら3人だったら、一人3枚だったら3枚で、10人だったら30枚プラス～それによ、まあ、2割ぐらいのつけてまあ50枚くらいよ、そういう様な勘定で。まあ、どんぶりになっちゃうけどな、そういうふうに回してかねえと。

野田頭: まあその、どんぶりで夜・朝・あとチェックアウト後か

湯川: そうそうそう。

野田頭: 3回は必ず変えるとして、

湯川: そう・・・て。

野田頭:それを加味して新規と～

湯川:昔この辺の伝票がどっか行っちゃって、片付けちゃったか白木。だ～遡るにも遡れねえんだよ。要するに過去のさ、週末の、ちょっとまって。正月のさクソ忙しい3日のときだってバスタオル120枚ぐらいしかはいってないわけ。間違いなく3日のやつなんて満館何だから。でしょ。3日満館120。これ、洗濯～また次の日出すけど。次の日も、バスタオル100枚くらいしか入ってないわけよ。だからその～100枚、100枚くらいで回転してる～状況で、まあ、たまたま5日の夜46入ってるけど空前の、こんな100～400いくつっていう物自体は。

野田頭:うん。

湯川:白洋舎に対しても実際問題無いわけよ。だからその分だけ100だったら100って小刻みに頼まねえと。ただ・・・話戻しちゃうけど。

野田頭:うん。

湯川:小刻みに頼んでも、向こうの都合があって、2日に一変しかねえからって事で。だから200とか予備含めてな250枚ぐれえとか、そういう様な目安で行かねえと。うん。

野田頭:要は在庫が無いって事ですか。根本的に。

湯川:そうそうそうそう。そうそう、もう洗濯やさんに無いわけ結局。うん。あれ～何ていうの、うちが依頼して、レンタルで作ってもらってるものだから。うちのものじゃないから。

野田頭:それははい。全部リースだから。

湯川:そうでしょ、そそそそ。リースだから結局。その分だから向こうも要するに、予算に応じて作ってもらってるものだから結局。

野田頭:だから、そう

湯川:空前の確かに500枚くらいはあるかもしれないよ。

野田頭:ふふ。苦笑

湯川:はい、用度です。うん。ごめんじゃ後で取り行くね。うん、ありがとございます。だから要するに、向こうも洗濯するのがあるはずだから結局。だから500枚くらいあるかも知れねえけど、要するに100枚200枚は洗濯の・・・に戻ってるから、実質乾いて回転出来るのは、300枚ぐらいなの結局。だからそういう感覚だから結局。だからうちの方も使い方をちょっと考えなきゃいけないけど、多分、数が少なくなってるや、お姉さんたちもいれねえから結局。だからそれで要するに、なんか言われてきたら俺の方にゆってくればいから。誰が、だからこれからはよっ、誰が言ってきたって言うてくれていいから。その人に直接言うから。もうそれはもう専務からもよう、そういう話を受けてるから結局いいだべ、どうなってるかって。だあもう要するに、今日はよう要するに今、話戻すけどな、今日は足りるけど明日は足りねえってそれいけねえけどな結局。だけどトータルのに要するにやっついていかねえと。うん。

野田頭:業者さんの都合はわかるんですけど、ただまあ、必要だから発注かけてる。それで。

湯川:いやもう、だからねえんだもん。それがこの業界だよ。おほほほほほ。

野田頭:取り決めていうか、あれは

湯川:ない。ない。そんなもん無い!

野田頭:どういう感じに。

湯川:ない。ない。こういうあれはあるけど、そういう契約とかそんなのねえもんうち。俺もそれ問い詰めた事。あるんだよっ。ちょっと待って。はい、用度です。はい。

ビン、ビンあるもん何でも・・・使うから悪いけどよ。そっ、うん、そっ。うんっ、うんっ。んっ?サンプルもないから。あっ、あつるけどさっ。ビンが余ってるからビン使えつつ。だあ、そういうふうになってるから。もう。だあ、最悪ダメだったら、大浴場の方から持ってって。大浴場の方がうんとあるの知ってるからよ。だあ、・・・だあこうやって2段あるんだけどお客少ないから一段に減らせて言ってるのにゆうこと聞かねえから。とりあえずそれでいいからさ。とりあえずその一要するにその日暮らしなわけ結局よ。

20200531強羅花壇__ボイスレコーダー反訳(文字起こし)

野田頭: わかってますけど、それで割食うのって現場の人間が一番わり、
湯川: だあ、それぞれも分かってる。お姉さんたちがみんなしている。ううん。うちら……。
野田頭: ……。
湯川: オーナーがやって来たって言うから結局。だあ、それはよう、あんまり、
野田頭: 白洋舎自体は……。そういう、そういうあれ何で。

強羅花壇の運用事情、業者をこき使う。

湯川: ……あんまりよう、あんまり深くこう、入ってこねえで。もうよう、そこでもう、下の方は切っちゃう。そういう考え方で、そういうあの連中だから結局。勝手に何でもかんでもなっこれだっ、浴衣だっ何だっ作ってくれ、つく、レンタルだから作ってくれつたっ、なあ、向こうだっ予算があるわけよ。でえ、10何年、裏を話すと10何年値上げしてえねんだよ、うちわよ。でっ、やっと今回どうしてもなっ、ダメだからって、若梅さんここに泣きついて、白洋舎さんと交渉して、洗濯屋代をよう、だあ、料金を少し上げたわけよ。それだからって事で、亮が依頼した、浴衣と寝間着とかああいうものを、作ってくれたわけよ。だあ設備投資も何したっなあ、まともによ利益が出なきゃさ、対応してくれねえんだから。うん、まあそういうのをさ。

経営者批判、リネンの裏事情

15:20

野田頭: まあ、当然……。だから。
湯川: まあ、そういうのをさ、あの二人に旧経営者の二人に言ったってわかんないから。言わないだけよ。だから今回、若梅さんここに話をもっって10何年ぶりに、もう何回も何回も、言ってくるわけ。結局。ねっ。
野田頭: 以前、聞いた……。
湯川: それでだから、そういう話をしたから作ってくれたの結局。だあ、バスタオルだっそうだ。あの～一番高けえから。ハンドとかフェイスとかよもってかれたら何だかんだっ、でも値段、値段的に安いから、作ってくれてある……。あの小さいやつわけ。あれだっ……。分余分に作ってくれて言えば作ってくれんだっ、だからあのバスタオルって結局マークも入っているでしょ、……。名前も、……。普通の白いものと違うでしょ。
野田頭: 刺繍っていうか……。
湯川: そうそうそう。それもあるから。だあ、実際問題、結局～言葉は悪いけど自転車操業だから結局うちは。そういうものに関して。浴衣だっ寝間着だっそうでしょ。まだいいほうだ、バスローブだっやっバスローブもそろそろ頼むけどよ。バスローブだっやっあれだよあのくらいまで増やしたの。えみこ、前の客室係の主任とよ、文句を言っよ。……。たっよ。10枚とか20枚とかしか買わなくてなっ。それでよう、他の部屋みんな入れろっ。足りねえわけよ結局。ねっ。だっ、そういう算数が出来ねえ人たちだからよ。

16:42

野田頭: まあ、そうですけど、実際問題今日、足りなかったら
湯川: ああ、もうしょうがねえよそこはっ！いいよっ。俺、もうもっかい電話するけど。バスタオルだけねえからって。実際問題いくつあるの？ざっと計算して。
野田頭: ざっと130～140くらい。
湯川: 130～140くらいか。わかった。今日はいった分も含めてか。
野田頭: 入った分含めてそうっすね。上の～やつだけで～見て。ざっと見積もって。まあ他～は……。
湯川: 部屋ん中入ってるべ？部屋入ってるべ？
野田頭: 多分、もってってる。
湯川: 入れてるべ？もってってるべ？

20200531強羅花壇__ボイスレコーダー反訳(文字起こし)

野田頭:だ〜一回分としてで〜もまあ人数で2倍掛けして160〜・・・ギリギリになるかかならないか。心配。

湯川:もう一回だから、電話してみるよ。今、飯時だから営業出ないと思うよ。あるんだったら100ぐらい持ってきて貰うよ。多分もう、いねえな。・・・電話どこ・・・。

野田頭:白洋舎そんなにいい加減。そんなにいい加減。

湯川:いい加減じゃなくて、白洋舎がもう駄目なわけよ。東京全部駄目でしょ。

野田頭:うん

湯川:箱根も全部駄目じゃねえか。でしょ、だから店し、店じゃねえ店じゃ、店閉めちゃったのよ。

野田頭:みんな体力がなくて資金繰りがっていう

湯川:ん?だ〜・・・そりゃ節約、経費を切ってるわけ結局よ。うちも経費切ってんべや。

18:01

野田頭:切ってますけど。

湯川:だあ、向こうも切ってるわけ。結局。だた、箱根でやってるの雪月花とうちだけじゃねえ?

野田頭:うん。

湯川:でしょ〜。それに人かけて洗濯だなんだかんだって採算が〜。

野田頭:うん。

湯川:トラックも・・・運送してさーでしょ。採算ベースが合うかって、結局こっから厚木の洗濯工場までね?うん、要するに・・・。・・・金かかかんじゃねえか。

野田頭:・・・

湯川:簡単に言うと、俺ははっきり見つけたわけじゃねえけど、3日分くらいためて持ってってたわけよ。2日分くらい溜めて持ってってたわけよ。そりゃ会社の会社の事情だからさ。で、うちの方もそれやっちゃ困るつつって、依頼するけど、だけどその向こうの会社の・・・うちの事をどう思ってるか。んだあ、はっきり言って500円とかのそこら編の、ユネッサン・・・入ってけどなあ〜。桁が違うんだから結局。・・・今はやってないけどな、順番から行けば。下から勘定したほうが早いかも知んない結局。実際問題だって、単価見たらわかんべえよだってよ、洗濯の単価なんてよ。30円とか50円50円もいかねえべ、レベルだよ要するに。でしょ、それが100枚とかそれとか800枚とか1000枚とか使うんだから結局。

19:20

野田頭:最終的には社長に言えばいい話何ですか?

湯川:どゆこと?えっ?ゆってもダメダメ。ゆってもな、白洋舎に何とかしなさいよ。何とかしなっつつあって、白洋舎なんかやってくれねえよ。

野田頭:そりゃ金払わなきや

湯川:それを言ったってならちがあかねえよ。もう、自分とこが天下だと思ってるから。

野田頭:ふ〜ん。

湯川:浴衣の件に話戻すけど、浴衣だって年間の予算があるから、内だけじゃねのよ結局。

野田頭:わかります、わかりますそれは。

湯川:だあ、そうでしょ。あなたは賢いから分かるでしょ。だあ結局、ウチだけが天下だと思ってるから。うん。大きな間違いをしてる事だけことなの。だからあんまり話したくねえって言うてんの。

野田頭:ふ〜ん

20:01

野田頭:普通笑われますけどね。

湯川:笑われてんよっ。何いってんだお前。はは、えっ。

野田頭:笑われるっていうかも、あ〜、もうだから相手にされないのかっ。

湯川:相手にされてないっていうの、はっきり言って、そこが本音だよ!!ええっ!確かに客は来んけどな。業者間で相手にされてないって。だからうちは悪い癖でな、新しい業者新しい業者ってな移ってく。

野田頭:あ〜鞍替え鞍替えって。

20200531強羅花壇__ボイスレコーダー反訳(文字起こし)

湯川:鞍替え、鞍替えって。

野田頭:ま～しんこう勢力は安くやんないと食っていけないですからね。

湯川:ま～それでも結局よ～。う～ん。懲りねえんだよな。う～ん・・・一回しか・・・、ここに来て化粧品会社また切っちゃうらしいけどよ。自分でか、見つけてきた会社。だから新しく化粧品・・・始めるみたいだけど。箱に入れて。

野田頭:あ～せんさいの

湯川:そうそう。離れいれてんべ？

野田頭:いれてますね。

湯川:あれを何か客室全室、

野田頭:離れいれてる。う～ん。

湯川:うん、う～んあれと同じのを全部入れるみたい。

野田頭:乾いた笑い。

21:08

湯川:だから単純に言うとな、いっかいよ、あなたがいないときは知らないけれど。これでやったわけよ。

野田頭:うん

湯川:うちの客室、何部屋あると思う。

野田頭:・・・。

湯川:うちの客室、何部屋あると思う。大体～。

野田頭:まあ、50・60あるか～？

湯川:部屋数・部屋数よ。部屋数よ～約45ぐらいでしょ。

野田頭:まあ、そうですねえ・・・

湯川:それでお客さん何人入るの？

野田頭:マックス大体100～・・・。

湯川:それぐらいで、この箱を～30個とか40個しか買ってくれねえのよ。それで平気で回ってると思ってるから。

野田頭:う～ん。

湯川:そういう人間だからさ。もう、相手にしないの・・・。だから今回も塩野が何か、だあ～言われてやってるけど。多分今日・・・光永に言ったんだよ。じゃこれ120個かってくれるかって言ったの。だあ、だから・・・専務に・・・。社長こういう事やってますけどどうしますかって。俺たちの言う事何か聞かねえからよ。

野田頭:予備で55個とと買いますけどね。60とか。

湯川:だあ、それが無いそれが無いの。そういう。算数できないの。

野田頭:いやあ～壊れたとか。あれだ、なんだかんだって。

湯川:盗まれたとか。全然そういうの考えないから。だって一人1個なんだから。化粧品とか、歯ブラシとか色々・・・。

野田頭:うん。

湯川:後何・・・。

野田頭:うん。存じてます。

湯川:清掃とか・・・30個ぐらいしかねえって・・・。

野田頭:存じております、見えますから。

湯川:じゃ、他はどうすんの？って。でしょ？・・・あの袋。ねっ・・・やって安い部屋・・。これでめんどくせえからできねえとかなくなったとか、・・・全部袋にもどしちゃったよ。とりあえずよ、あれだよ、これから～電話して～タオルだけ・・・、頼むだよ～・・・。んで駄目だったらあれだよ。無いって言うよ・・・。

野田頭:まあ、いいっちゃいいですけど。内務本来の業務が回らないんですよ。

20200531強羅花壇__ボイスレコーダー反訳(文字起こし)

湯川:そ、そりやもう覚悟してよ。…。…だってねえものはねえ…。…会社のそういう、若梅さんはそういうのわかって…。…いわね一っしょ。…。

23:28

野田頭:だあ、カウントするのも誰でもいいんですけども、内務本来の業務自体がおかしくなってきたるんで～。…。あんまり数字書いても持ってこれない。

湯川:だあそれは、べらぼーな数字を、…俺もわかんなかったけど。従来の～量からいくとそんなに、

野田頭:う～ん

湯川:納品した～。経緯は無いわけよ。要するに、たまたま今日こんなに増えちゃったけれど。

野田頭:うん

湯川:これの時だって、あの～何ていうの、

野田頭:これも多分100人くらいになるだろうっていう、前提でやってますからね。

湯川:だあ、…そうそうそう、でっ1月の～、

野田頭:補正も

湯川:1月の3日の日、3日の日ね?くそ忙しい時だったって、100何枚しか入れてねえわけよ。で、その～下の日、仮に2日の日も～150枚くらいしか入ってないのよ、…多分両方ともまんぱんだから、200人くらい入ってる…。200人で…足しても300…まあね…それで回ってるんだから。あんまりよ～過剰にぶっこんどくと、皆湯水の如くじゃんじゃん使うから～。そこは押さえればいいって事よ。だから離れもまた持ってっちゃったのよ結局。離れの分を抜けて、2割。抜いちゃっていいって、係が持つてくのは仕方がねえから。…出し方色々あるけどよ。あんなに詰め込まなくていいって。だから精々あっても200～200ぐらいかな、バスタオル。

野田頭:発注かけても。

湯川:200ぐらい。だあ、200、200ってかけるしかねえよ。お客さんが多い時はなっ。今日は200、明日は200、そういう風にかけるしか無い。明日はまたお客さんすくねえじゃねえか。だあ、それはそこで…

野田頭:それはそれで良いんですけど、

25:25

湯川:通常のランニングの中で多い時は、要するに普通の金・土でほら、80人に～100人きたら～あるでしょ。そういう時は200だったら200、200ってかけるしかねえわけよ。

25:45

湯川:それがっ、本音です。この業界の。業界じゃねえ、強羅花壇の本音です。

野田頭:ふっ。

湯川:バスローブだって洗濯してくれる所がねえから、わざわざたけえからって白洋舎にやってもらってるわけよ。だって400円もすんぜっ、あれ。普通の家庭の…とおんなじだよ。だっ、向こうにも言い分があんからよ。お宅のものなんだから普通のクリーニング屋に出してくれって言われたらそれまでだよ。ってそんなに対応できるとこねえもん。毎日毎日～あの～なんていうの?

野田頭:…まあ、まず無理でしょ。…。

湯川:…量的なもので。

野田頭:物量考えるとまず無理。

湯川:次の日に持ってきてくれて。そこの洗濯屋が合った時に持ってきてくれたけど。…今ちょっと。

26:31

野田頭:…。

湯川:…向こうの方が強いわけ、考え方によっちゃ。

野田頭:まあ、当たり前ですけど。

湯川:一部上場企業だしな。だあ、はっきり言ってうち～白洋舎から断られたら、アウトだからね。要するにっ、えへへっ。

野田頭:...

湯川:はつきり言ってそだよ、そりゃそーだよ、こんなにバリエーションあるっ所は無いでしょ。旅館だって何だったって。そりゃ部屋ん中に入ってるものも〜。

野田頭:...

湯川:...ないけど、あるけどさ。浴衣だか何だか2枚も部屋ん中に置いていく阿呆もいるわけだべ？あなた言わねえけど、客室係が。にに、2枚とか...過剰サービスとかって。滞在ならわかるけどおめえよ、何だかしらねえけど風呂上がりまた着替えるんだろ。新しい浴衣にすんだべよ。そういうとこも薄々わかってきたけどさ。ちょっと待ってろよ...そろそろ.....。

野田頭:もう多分、全部もうガイドライン作らないとおかしくなる。

湯川:そういうレベルの会社じゃないから。

野田頭:ダイジョブかな社長...

湯川:もしもーし富田さん？うん、今日は何よ休みかっ。うんっ、で〜宮城の誰かいねえの。いる〜。うん。あと他に誰かいないの〜？いるう〜？いるう〜うん。で〜、だ〜あの客室用のバスタオルがちょっと欲しいんだけどよお〜、う〜ん。そうそう。う〜んと200ぐらいある〜？ありそう？ありそう？ねえ。200ぐらいちょっと今日貰いたいんだけどさあ〜。明日の朝の分が多分無いって言ってんだよ、明日の朝入る〜お客さんが〜黄色いほ〜客室でさあ。うん。うん。ちょっと悪いんだ、いたんだけど必要以上のものが入ってねえわけ結局よ。うん。うちの方もちょっと数字をよ〜。ちょっと金額を〜量もたくさん入れてるんだけど、うん〜そうそう。うん、今日、うんっ。ちょっとわりいけど頼むよ〜。うん。誰か入れてくれる見てえだから夕方には来る。

29:09

野田頭:...というのは。

湯川:えっ？

野田頭:業者に相手されて無いっていうのは根本的に〜

湯川:元々おかしいからよ、ただっ、名前だけだっ...。だから俺言ってべ真面目によ〜。なっ、世の中強羅花壇中心に回ってると思ってる。とんでもねえよ。

野田頭:...わからないですねえ〜。

湯川:やっただから...聞こうともしない。だっ、あの〜宮川さんだっって頭抱えてるよ。

野田頭:業者のあれにしたって〜あのまあ、堂々巡りになりますけど〜、契約書なんにも無いってことですか？

湯川:無いよそんなもん。俺一応一回話したんだもん、だから値上げする時に〜、ちゃんと〜家のトミタっていうのが営業〜担当いるんだけど、上司を連れてきて、ちゃんと〜総務行ってきちっと話してきなさいよって言った。その時にちゃんと取り決めできちんと話してきた。だあ〜、契約書なんて見たことねえもん俺。総務にあるかも知んねえけどいつの契約書課わかんねえそんなもん。え〜30年さきのかもしんねえけど。

野田頭:僕も普通にもう今日言います。僕の契約書どうなってますって、私の契約書。

湯川:俺も会社行った時に労働契約書何か書いてねえよ。

野田頭:あははははは、普通もらいます。

湯川:書いてねえよ

野田頭:ここぐらいです、書いてないの。

湯川:一応書いてないよ...。12年だか13年前〜。それでも特に問題ねえから俺は。

野田頭:まず、ワンクッションで亮さんに言いましたけど〜、やらせてる仕事がおかしすぎる。

湯川:亮だっって...。おかし...。世界の強羅花壇...。

野田頭:あくまで善意でかってやったあれですよ。マニュアルにしたってガイドラインにしたって、全部作ってやったって、あんなのもう外部でコンサルティング頼んで、やろうものなら300万とか余裕で飛びますからね。

31:01

湯川:だあ〜再三言わなかったっけ、コンサルタントをきちっと入れれば良いんだけど〜、それって結局自分達で、好きなようにやりたいから、あの夫婦が〜、だから入れないわけよ

20200531強羅花壇__ボイスレコーダー反訳(文字起こし)

～。客室係だって教えるのね～何で亮なんかその辺のおばちゃんが教えなきゃいけないだって。ちゃんときちっとした、コンサルタント金もらうなら・・・、・・・会社だってうちの要望が会社の通りきちっと・・・、そういう金払うのは嫌いだから。自分の財布から出すのは絶対やなわけ。1円でも、そういう人たちだから。

31:37

野田頭:・・・監査入ると思いますけどね。

湯川:えっ?いやいやいやもう、スターアジアも・・・しちゃって丸投げになるんだよ結局。とりあえず・・・。

野田頭:・・・じゃあもう、こっちに振らないで。

湯川:・・・じゃもうそういうふうに言えばいい。

野田頭:部署またいで・・・。時間が合ってる分には全然良いですよ。それはそれで・・・。だが、本来の・・・。

湯川:亮ちゃん若いオネエちゃんにご飯食べに行くんじゃないかってもうちょっと考えてよ。って用度が言ってたって言えばいいじゃん。

野田頭:・・・

湯川:時間で考えてねえから、これだけの量があって時間内でできるかどうかとか。そういう事考えて無いから、

野田頭:だって、全部～

湯川:だあ係に任せれば良いわけだよ。お客さん少ねんだからよ。でしょ。

野田頭:全部だって時間逆算して書いてますからね。何分何分って～。だからっ

ノンストップで回ってても、終わらないんですって。

湯川:か係に行けばそんなもんだってな、あれだって文句を言わないオネエちゃんにばかり言ってる。だから亮たちが悪いんだよ。文句が・・・。

33:40

野田頭:ああ、若梅さんすいません。あの～終わった後お願いします。

若梅:う～ん。

47:00まで音声無し、建物移動、トイレ